

三田で生き残った絶滅危惧種ニッポンバラタナゴ～二枚貝に卵をうむ魚～

谷本卓弥・松島修・山口達成・田中竹実・原智晃・太古数馬・高石悠生・水谷信彰
(ひょうご北摂タナゴ研究会)

ニッポンバラタナゴ (コイ科タナゴ亜科) 以下「ニッパラ」



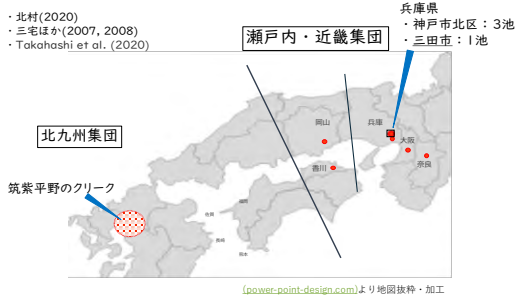
(英)
 ・日本固有亜種
 ・天然分布は琵琶湖、淀川水系以西の瀬戸内地域～九州北部に広く生息
 ・現在は限られた地域のみ生息する絶滅危惧種
 環境省カテゴリ：絶滅危惧 I A類 (CR)

絶滅危惧種になったおもな理由



⇒垂種タイリクバラタナゴとの交雑
 ・1940年代にソウギョなど混じって中国から移入
 ・現在は北海道～沖縄まで全国に分布
 ・容易にニッパラとの交雑個体ができる
 ・交雑個体は外見では判別が難しい

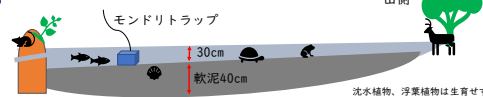
ニッパラの現在の生息地



タナゴの生活史 ⇒ 二枚貝に産卵、貝の中でふ化



調査池の自然環境



調査目的

本種は絶滅危惧種であるがゆえ、生態的な基礎研究が不足している。現在の生息地におけるニッパラの生活史や食性、二枚貝の生態などを調査研究することにより、本種の保全やビオトープ池への移入に寄与することが本調査の目的である。

調査方法

(1)ニッパラの生活史・個体群の年齢構成

- ①ため池5カ所に定点を設け1回/月モンドリトラップを30分間
- ②捕獲個体の標準体長測定、雌雄の判別等を行う



(2)ニッパラの食性調査

- ①各回で捕獲した数個体を10%ホルマリン固定し、後日消化管内容物を同定する
- ②池水および底層の動物植物プランクトンを採取・同定し、消化管内と比較する



(3)二枚貝の生活史調査

- ①ため池の長径に沿った2本のライン上、左右1mの範囲で二枚貝を素手で採取
- ②種を同定し個体数や殻長を計測後、殻に油性インクで識別番号を記し放流

(4)ため池の水質など無機的環境調査

水温・pH・COD・電気伝導度等の水質測定



[調査結果および考察] (解析途中)

(1)ニッパラ捕獲数の推移と水温



(2)月ごとの標準体長 (SL) 分布



ニッパラの寿命は約2年

*方法(2)食性調査、(3)二枚貝の生活史については今後解析を行う予定

今後の課題

- ・ニッパラ、二枚貝の幼若個体の捕獲ができていない
- ・データの統計処理が必要